特集

富士通グループの環境社会貢献活動への取組み

Fujitsu Group Activities to Contribute Environmentally to Society

あらまし

「企業は社会の一員，一部であり，社会との関係を無視して企業は存在し得ない」（第15回企業白書 社団法人 経済同友会 2003.03より）と言われるとおり，企業が社会の一員としてどのような役割を果たすべきか，今改めて問われ始めている。

富士通グループでは，企業活動における環境負荷低減を目的とした管理活動と並行して，社員，または拠点・事業所，グループ会社が中心となった，環境社会貢献活動を積極的に行っている。

本稿では，富士通グループの環境社会貢献活動の考え方，活動の具体例，社員の活動を推進する仕組み，表彰制度について紹介する。

Abstract

The role a company should play as a member of society is now being viewed in terms of the following: “A company is a member of society, and as such it cannot exist if it disregards its relationship with society” (excerpt taken from the 15th Company White Paper of KEIZAI DOYUKAI [Japan Association of Corporate Executives] in March 2003). In addition to its management activities, the Fujitsu Group has been actively involved in philanthropic activities intended to reduce the environmental impact of corporate activities. The employees, company sites and offices, and group companies are the main contributors to environmental protection on behalf of society. This paper describes the concept of “Fujitsu Group Activities to Contribute Environmentally to Society,” gives examples of these activities, and introduces the structure for promoting employee activities and a system for honoring these activities.

高木　淳（たかき　じゅん）

SD企画室マネジメント企画部 所属
現在，環境コミュニケーションの企画管理業務に従事。

前沢夕夏（まえざわ　ゆか）

SD企画室マネジメント企画部 所属
現在，環境情報システム構築，および環境社会貢献活動推進業務に従事。

ま　え　が　き

近年立て続けに発生した企業の不祥事によって，企業の社会的責任（Corporate Social Responsibility）やサステナブル経営への関心が一段と高まっている。従来までの経済分野を中心とした企業経営にプラスして環境分野，社会分野への対応が重視される中で，企業の社会貢献（フィランソロピー）への要求は強まるばかりである。

環境分野でも，企業活動における環境負荷低減活動のみならず，社会への幅広い貢献が求められており，富士通グループでは，社員を中心とした環境社会貢献活動を積極的に推進すべく様々な施策を行っている。

本稿では，富士通グループの環境社会貢献活動の考え方，社員の活動を推進する仕組み，活動の具体例，表彰制度について紹介する。(1)-(4)

環境社会貢献活動の考え方

企業の社会貢献の形は，その活動内容に賛同する団体やプログラムへの寄付・協賛，企業内担当部門が，まとまった資金を投じて企画から実行までを通して行う形態（これにはNGO/NPOとのパートナシップによる企画も含む），社員が個々に参加する活動を資金面・制度面で支援する形態，など様々である。

富士通グループの環境分野における社会貢献活動は，中央にある推進部門が企業活動のテーマと連携して活動するだけでなく，「各地域・拠点において，社員一人一人が主役となって活動すること」に重点を置いている（**図**-1）。その理由は，企業が地域コミュニティとのつながりを維持していくためには，各拠点がその地域の要求に合った活動を行う必要があること，また，担当する一部の社員がかかわるのではなく，社員一人一人に社会的感性を持たせ，企業活動において新しい価値を創造する原動力とすることにある。

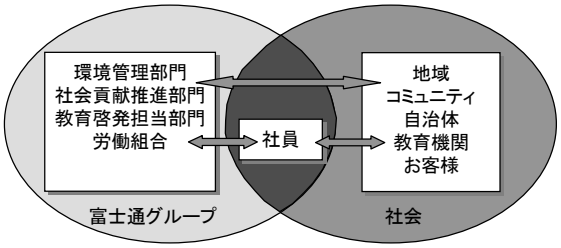

図-1　環境社会貢献活動の考え方
Fig.1-Fujitsu Group's environmental social contribution concept.

各拠点におけるボランティア活動

環境社会貢献活動における富士通グループの一つの形として，国内外グループ会社，および富士通の各事業所で，地域や行政と一体となった環境ボランティア活動が推進され，社員が積極的に参加している。

以下に，いくつかの事例を紹介する。

館林システムセンタと熊谷工場では，群馬県立つつじが岡公園で翌年のつつじの開花を促進させるための子房摘み作業に，2000年より毎年50名ほどの社員と家族がボランティアで参加している（**図**-2）。

また，富士通サポートアンドサービス（Fsas）では，「環境社会貢献活動への参加を，推進ブロックごとに年1回以上」を目標に掲げ，姫路城の清掃，大阪市が主催する「OSAKAクリーンピック」への参加，茅ヶ崎市大和田海岸の清掃など，全国111ブロックで所在する地域と連携した活動を継続している。

海外拠点では，富士通香港（Fujitsu Hong Kong）で（財）オイスカ主催の植林活動を2001年より5箇年計画で実施し，毎年50名以上の社員が参加しているほか，富士通ネットワークコミュニケーションズ（Fujitsu Network Communications）では，1994年から継続するテキサス州小学校とのパートナシップにより，清掃活動や環境以外の分野にわたる教育支援を行っている。

図-2　子房摘み作業
Fig.2-Flower ovary culling.

これらの活動は，各拠点・事業所ごとに，その地域の要求に対応した活動を自主的に企画・実行しているものである。

次章では，前述した社員の活動を支援するために構築されたコミュニケーション手段の一つである，“ FUJITSU Eco Club ”を紹介する。

FUJITSU Eco Club

社員一人一人を「自ら考え，活動するボランティア」に育てたい。そんな思いから，社員の様々な環境ボランティア活動を支援するイントラネット情報交換サイトFUJITSU Eco Clubを運営している（**図**-3）。

FUJITSU Eco Clubは「社員の社員による社員のための」を基本スタンスとし，社員自らが活動する情報の公開，ボランティアの募集，掲示板を利用しての意見交換が行われている。

また，社員への啓発を目的とした運営担当部門企画のコンテンツ公開を継続的に行っている。2002年は「エコ紀行」と称して日本各地の現場を訪れ，実際に目にした現場，現場に携わる方々の声を紀行文としてまとめ，シリーズ公開してきた（**図**-4）。訪問先は，世界遺産に登録されている白神山地，大規模な干拓計画で現在も揺れている諫早湾，産業廃棄物問題でクローズアップされた豊島，ごみの徹底分別・リサイクルに挑戦している名古屋市など数箇所に及ぶ。いずれの訪問先も新聞やTVなどのメディアで数多く取り上げられてきたが，社員の目で見て，社員が感じたことを伝えることで，それとは違ったインパクトを社員に与え，身近な問題について考えるきっかけを与えることができたと考えている。

図-3　FUJITSU Eco Clubホームページ
Fig.3-FUJITSU Eco Club homepage.

推進部門の企画による環境社会貢献活動

先に述べた拠点・事業所の活動以外にも，企業レベルで企画した様々な活動がある。

1997年からスタートした，東南アジアでの植林プロジェクトは，富士通グループ社員からの寄付金を事業資金として，富士通労働組合，海外現地グループ会社の協力のもと，社員が現地へ渡って植樹作業を行っている。植樹先は富士通グループの海外拠点であるタイ，ベトナム，マレーシアで，2002年度までに累計3,540万本の植樹を行った。

また，IT企業としての特徴を生かした企画もある。

（財）オイスカが推進する植林プロジェクト「子供の森」計画を支援する目的で，2003年3月よりニフティ，（株）フォトンと協力し，インターネットゲーム[5]の課金の一部を植林事業へ寄付するサービスを提供している。支援先が植林事業ということで，ゲームコンテンツは「仮想空間を仲間とともに音楽セッションし，花や緑で豊かにしていく」という植林をイメージしたものとなっている。ゲーム参加者

図-4　エコ紀行
Fig.4-“Eco Travel” homepage.

図-5　「リズムフォレストの森」植樹
Fig.5-Forestation in Rhythm Forest.

図-6　環境フォトコンテスト最優秀賞「満天の星空」
Fig.6-Environmental Photo contest- Most excellent award “Marvelous Starry Sky”.

はバーチャルとリアルの世界で緑化を支援することになる（**図**-5）。

このほかにも，大学や小中高等学校を対象とした環境教育，環境部門へのインターン受入れ，環境に配慮した設備見学会などを積極的に行っている。

環境コンテストの開催

活動への評価という視点から，富士通グループでは，社員の環境保全活動における意識向上を目的に，1995年より「環境コンテスト」を開催してきた（**図**-6）。

本コンテストは，並行して開催する「環境貢献賞」とジャンルを分け，企業としての行動と言える環境活動以外の，多様な活動を表彰するものである。

表彰項目としては，初年からの環境フォトコンテストに加えて，2002年より環境ボランティアコンテストを実施し，拠点・事業所など組織としての活動のみならず，個人レベルの活動も評価している。

また，受賞テーマについては，表彰式と活動報告会を開催し，富士通グループ全体の取組みの活性化を図るとともに，6月の環境月間行事，環境フォーラムなどの各種展示会で広く紹介するよう心がけている。

む　す　び

1990年代から地球環境問題対策への要求が高まりを見せ，環境分野での社会貢献が盛んに行われるようになった。それとともに従来までの芸術・文化を支援するメセナ活動とは違った，非資金的支援（人，サービス，場所の提供）という新しい支援の形が広がりを見せている。これは良き企業市民として，または社会の一員としての活動とも言える。

さらに，企業の社会貢献を，従来までの慈善活動から企業を取り巻くステークホルダと企業自身の価値を高めるための戦略的投資として位置付ける動きも出てきている。

これらを踏まえた富士通グループの課題は，社員一人一人が企業市民として自主的に行う活動を支援する仕組みと，組織としての活動結果を測定・評価・改善していく貢献活動評価プログラムの構築，さらにステークホルダへのアカウンタビリティ向上につながる社内外コミュニケーションを強化していくことである。

私たち富士通グループは，これからもIT企業としての技術と創造力，さらに社員個人の社会性を生かした環境社会貢献活動を継続していきたいと考えている。最後に，本稿で紹介した「エコ紀行」の取材に対応していただいた方々にこの場を借りてお礼申し上げたい。

参 考 文 献

(1)　―：第15回企業白書「市場の進化」と社会的責任経営．社団法人 経済同友会，2003年3月．
(2)　伊吹英子：社会投資としての社会貢献活動の戦略化と評価制度構築．Business Research，2003.2.
(3)　―：NPO/NGOと政府・企業のコラボレーション研究委員会報告書．財団法人 地球産業文化研究所，平成15年3月．
(4)　2003富士通グループ環境経営報告書．http://eco.fujitsu.com/jp/info/report/2003/
(5)　リズムフォレスト．http://www.nifty.com/ref/